



行田の未来を育てる

いのちの森づくり

未来を担う子供たちに木や土のぬくもりを肌で感じてもらい、自然の重要性や命の大切さを伝えることを目的として、平成20年度から始まった「いのちを守る森づくり 親子植樹祭」。これまで、総合公園内や古代蓮の里内に8千本以上もの苗木を植樹し、小さかった苗木が今では背丈を越すほどの木々へと成長しています。

本市では、森づくりを通して、行田から世界に向けて緑の再生を発信しています。



平成19年8月、森林生態学の世界的権威である宮脇昭横浜国立大学名誉教授を招き、「ふるさとの木によるふるさとの森づくり講演会」と題した講演会（同講演会実行委員会主催）が「みらい」文化ホールで開催されました。その講演会において「子供たちが笑顔で遊べる森づくりを行田から世界に広げてほしい」と提案されたことをきっかけに、いのちを守る森づくり親子植樹祭（以下「植樹祭」）が始まりました。

これまで3回植樹祭を実施したほか、植樹参加者に自分の植えた苗木の成長を確認してもらうとともに、植樹場所の除草作業を行う育樹祭も実施するなど、継続した森づくりの活動につなげています。



第1回いのちを守る森づくり親子植樹祭の様子